

第2期三田版総合戦略【骨子案】

1 三田版総合戦略の位置付け

＜三田市総合計画との関係＞

平成 26 年に施行された「まち・ひと・しごと創生法」を契機として、平成 28 年 3 月に第 1 期三田版総合戦略を策定し、地方創生に取り組んできました。

平成 29 年 4 月からスタートした「第 4 次総合計画後期基本計画」では、総合戦略に掲げる取り組みはまちづくりの最上位計画である総合計画と一体的に進めることが適当であることから、先行した「第 1 期三田版総合戦略」を溶け込ませ、地方創生を推進してきたところです。

「第 5 次総合計画」においても、「第 2 期三田版総合戦略」を一体的に策定し、基本計画に点在する地方創生の推進に係る様々な施策を、基本構想における「まちづくりの視点」の一つとして、三田版総合戦略の推進を特徴的な取り組みに位置付け、切れ目のない取り組みを推進していきます。

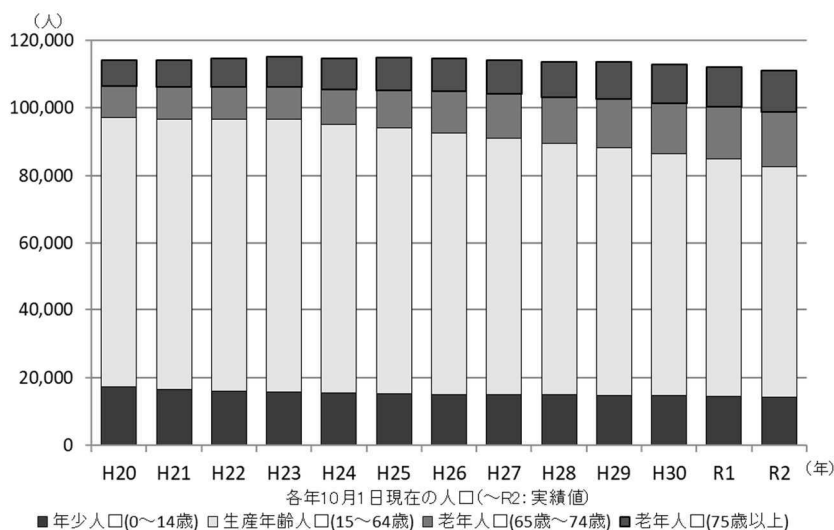
第 2 期三田版総合戦略は、第 5 次総合計画基本計画に掲げる施策の中から、移住・定住や少子化対策など地方創生に関するものを選定し、それらを組み合わせ、政策パッケージとして積極的に推進します。

2 第 1 期総合戦略の振り返り

＜人口等の推移＞

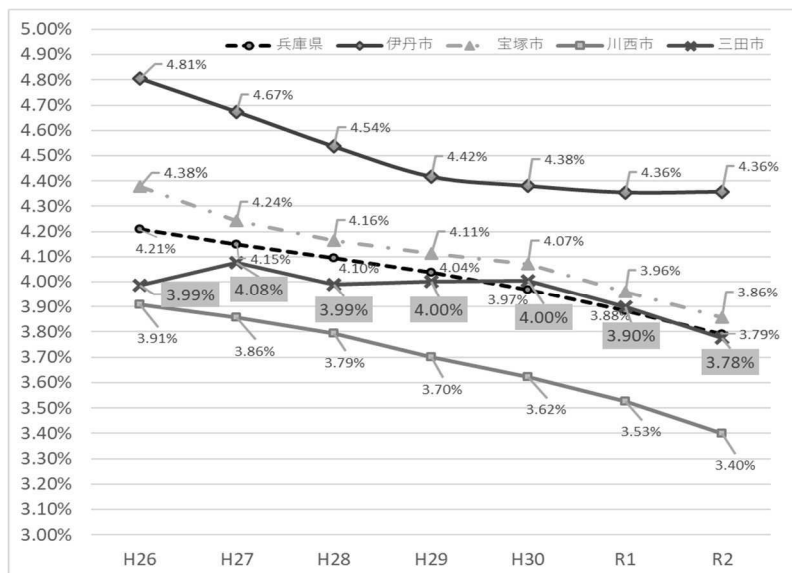
① 人口の推移

平成 23 年以降は緩やかに人口が減少しています。



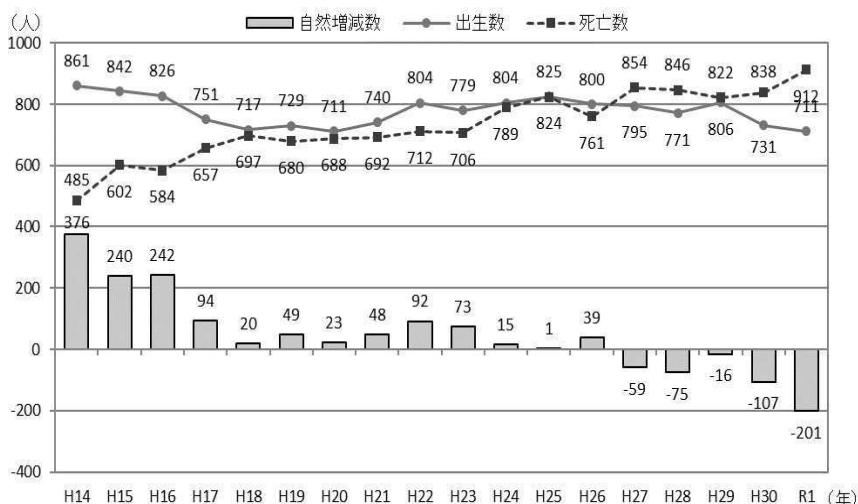
② 人口に対する0～4歳の子どもの数の割合

本市の合計特殊出生率 (1.16) は、兵庫県平均 (1.41) を大きく下回りますが、人口に対する0歳から4歳の子どもの数の割合は、県・近隣市と比較しても大きく変わらず、また第 1 期三田版総合戦略の期間中の減少幅が少ないことが大きな特徴です。



③ 自然動態(出生・死亡)の推移

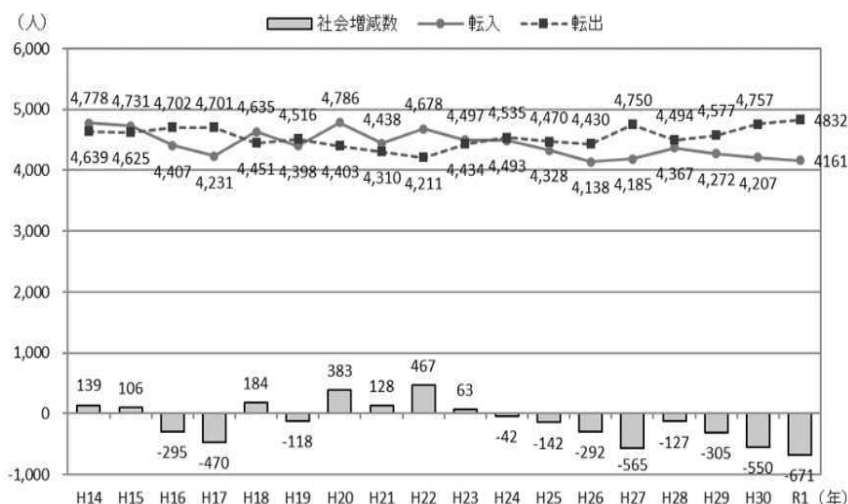
出生数が減少傾向であり、平成27年度以降は、出生数を死亡数が上回り「自然減」の状態にあります。



④ 社会動態(転入・転出)の推移

平成24年以降は、転出者数が転入者数を上回る「社会減」の状況にあります。

転入・転出先は、県内で最も多いのは神戸市、県外では、大阪府(特に大阪市)が最も多い状況です。



<数値目標・成果指標>

基本目標1 子どもに夢を

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
数値目標	合計特殊出生率	1.22(H25)	1.25	1.28	1.25	1.17	1.16	—	△
成果指標	乳児全戸訪問率	86.3%(H27)	99.5%	92.6%	92.6%	87.3%	93.6%	91.3%	○
成果指標	こども未来塾の参加者数	—	5,000人	263人	717人	2,217人	3,698人	2,504人	○
成果指標	学習プログラム参加者数	3,000人(H27)	3,300人	3,657人	3,405人	6,329人	3,242人	1,586人	◎

基本目標2 高齢者に安心を

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
数値目標	市民満足度(高齢者の安心)	3.06(H26)	4.00/5点	3.08	—	—	3.00	3.13	△
成果指標	要介護・要支援認定者割合	17.2%(H27)	16.6%	17.1%	17.2%	17.4%	17.1%	17.2%	△
成果指標	高齢者運賃助成制度利用率	44.9%(H27)	55.0%	49.4%	51.1%	51.5%	52.0%	42.5%	○
成果指標	防災訓練の実施率(区・自治会)	70.3%(H27)	88.0%	76.4%	68.1%	68.3%	70.4%	39.4%	△

基本目標3 地域に元気を

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
数値目標	観光入込客数	344万人(H26)	400万人	346万人	337万人	329万人	315万人	279万人	△
成果指標	三田市に「住み続けたい」と感じる若者の割合	55.5%(H28)	60.0%	55.5%	43.4%	47.4%	47.0%	51.2%	△
成果指標	地場産レストラン年間来客数	—	40,000人	—	—	—	—	—	×
成果指標	ノルディック・ウォーキングイベントの参加者数	—	1,100人	354人	568人	1,113人	737人	67人	△

創生の方向性

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
成果指標	いきがい応援プラザ年間利用者数	—	3,600人	392人	1,460人	1,432人	1,133人	572人	△
成果指標	協働事業採択実施件数	—	20件	0件	1件	0件	0件	0件	×
成果指標	広域メディア掲載件数	50件(H27)	100件	62件	105件	91件	101件	105件	◎
成果指標	新婚・子育て世帯定住促進支援事業の利用件数	83件(H27)	110件	129件	86件	83件	55件	36件	△
成果指標	市民の満足度平均点(景観)	3.47(H26)	4.00	3.54	—	—	3.45	3.55	○

<評価>

第1期三田版総合戦略は、まちとしての魅力を高めることで、人口を確保しようとしたものです。各施策については、例えば、こうみん未来塾をはじめ、魅力づくりに貢献する事業がありますが、大規模な住宅開発も完了したこともあり、子育て世代を中心としたまとまった人口を確保できず、思い描くような人口の押し上げ効果が見られない状況です。また、魅力づくりは短期的に効果が見えづらい性質のものでもあり、内容を精査してより実効性がある取り組みを行うとともに、移住・定住、少子化対策など人口減少に関する取り組みを積極的に進める必要があります。

(2) 将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所に準拠)

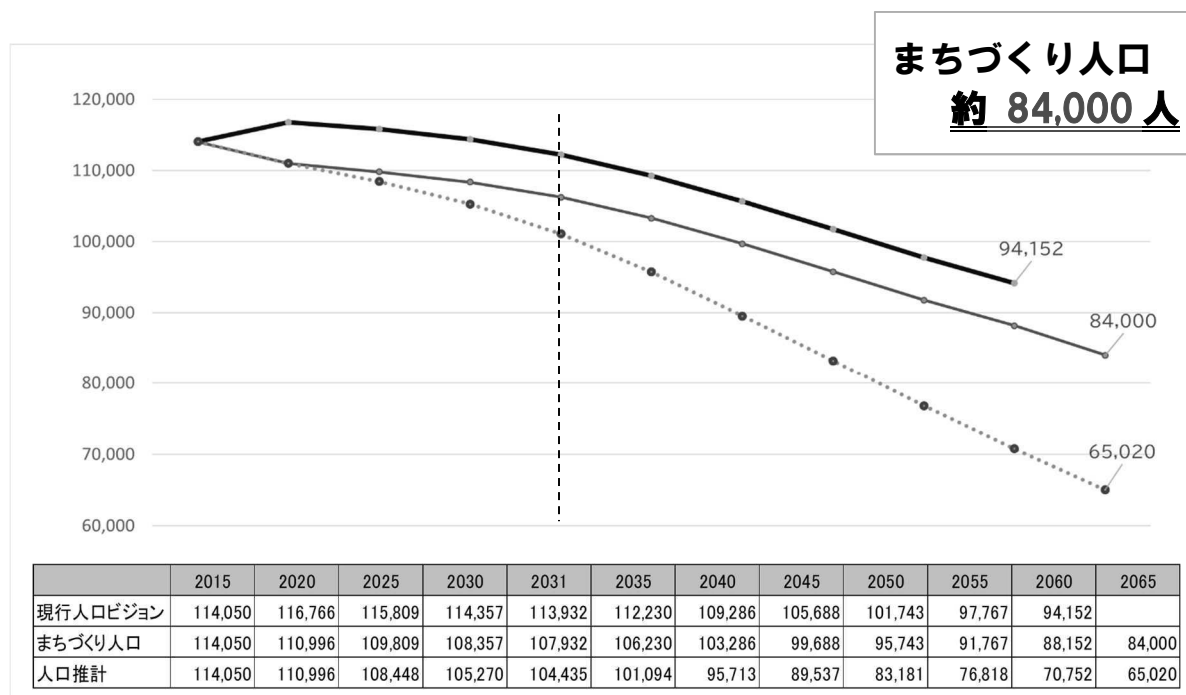
①2065年の人口推計

2065年の人口は約65,000人まで減少する見込みです。

②人口構成

0歳から14歳の年少人口の割合は、現在の約13%から約10%まで下落する見込みです。

一方で、65歳以上の高齢人口の割合は、現在の約26%から約44%まで上昇する見込みです。



3 総合戦略の体系

基本目標1 「住み続けたいまち」になる ～定住促進～

まちには、住んでみて初めてわかる魅力があります。それは、住んでいる「人」の魅力です。市民がこれまで築きあげてきた人と人、人とまちとのつながりなどは、三田にとって大きな財産です。新型コロナウイルスの影響により、人との接触が制限される経験をしたことで、改めて人とのつながりの大切さを再確認した方も多かったのではないのでしょうか。

基本目標1では、中長期的には、人のつながり・結びつきを大切にすることで、まちへの愛着が生まれる取り組み、短期的には、転出傾向が高い若者を対象にした取り組みを行います。

(1) 人のつながり・結びつきを大切にする **中長期**

「人のつながり・結びつき」は、若者をはじめ多くの人にとってまちへの愛着を生み、三田に根

付く強い動機付けとなります。また、成長から成熟の時代を迎え、物質的な豊かさから心の豊かさが重視されるなど、市民の価値観が多様化しています。そのような状況においては、お互いを認め、共に支えあい、一人ひとりが三田を心地よい居場所として暮らすことができる地域社会が、真に求められます。

「誰ひとり取り残さない」ことを主眼に置き、ICTを積極的に活用し、対面、非対面に関わらず人のつながり・結びつきを構築します。

●主な取り組みイメージ

- ・三田市人権を尊重し多様性を認めあう共生社会を目指す条例の実施
- ・社会的孤立・孤独の防止と地域におけるつながり強化の取組

(2) 若者のまちとの関わりを応援する **短期**

若者が、多様な体験を通じ、三田において果たしたい役割を見つける機会を創出するとともに、三田の地域資源（人・もの・こと）との繋がりを促進し、若者が自ら望む役割を果たせるようきめ細やかな支援を行います。若者が、自らまちづくりに関わり、その中で三田の魅力溢れる「人」と関わることで、まちへの愛着が生まれ、定住を促進します。

●主な取り組みイメージ

- ・若者の居住用借家に対する支援
- ・若者が進めるまちづくりの支援

● **第5次総合計画における関連する主な施策（基本計画）**

地域で支えるまちづくり、若者が集うまち、心つながる暮らしの安心

基本目標2 「選ばれるまち」になる ～移住促進～

本市は、大阪・神戸の都市圏にもほど近く、充実した住環境や利便性の高い都市機能が備わっています。さらに、すぐそばにある里山や自然の恵みは、市民の暮らしに安らぎや彩りをもたらすなど、都市と里山が同時に楽しめる魅力的なまちです

また、第1期三田版総合戦略では、三田版ネウボラの「子育て世代包括支援センター(チャッピーサポートセンター)」をはじめとするきめ細やかな子育て支援施策や、充実した学校教育に加えて、産学官民連携による専門的かつ多様な学びの場を提供する「こうみん未来塾」など、文教都市としてオンリーワンの教育・学びの魅力づくりに取り組んできました。

基本目標2では、こうした取り組みに加えて、中長期的には、本市が移住先の選択肢に上がり、選ばれることを目指す取り組み、短期的には、移住先の選択肢に既に上がっている人の最終選択を後押しする取り組みを行います。

(1) 三田の魅力を知り、体感する **中長期**

学びの魅力にあふれたまち、「新しい働き方」と「豊かな暮らし」が両立できるまちをコンセプトに、若者や子育て世代をターゲットとして、インターネットなどのICT技術を積極的に活用するなどにより、本市の魅力を訴求するとともに、三田とつながる機会を提供することにより、三田の魅力を体感してもらい、移住に対する意識を高めます。

●主な取り組みイメージ

- ・若者へのオンライン移住相談
- ・イメージ動画を活用したオンラインツアーの実施

(2) 三田で住み、働く場を創出する **短期**

ニュータウンの開発が一定完了し、新規の住宅ストックが見込めない中においては、高齢化が進むニュータウン地域を中心とした良質かつ豊富な住宅ストックについて、世代間代謝を高め、若者や子育て世代を中心とした新たな移住の受け皿となる住宅を確保するため、流通促進の支援を行います。

あわせて、テレワークを含めた多様な働き方を実現する場を創出し、U I J ターンを促進します。

●主な取り組みイメージ

- ・空き家の市場流通の促進（更地にした際の納税猶予、除却補助）
- ・テレワーク・ICT環境の充実

● 第5次総合計画における関連する主な施策（基本計画）

若者が集うまち、商工業の振興、良好な住まい

基本目標3 「子どもの笑顔があふれるまち」になる ～少子化対策～

現在、「子どもがいる暮らし」を選択することをためらう若者も増えています。その理由は様々ですが、核家族化の進行により、身近に子どもと接する機会がないまま大人になり、「子育ては大変だ」などのマイナスの印象が先行していることも考えられます。子どもの笑顔を見ると、多くの人が思わず自分も微笑んでしまうなど、子育てには、子どもから得られる喜びや癒しなどのプラスの側面がもちろんあります。

基本目標3では、誰もが、中長期的には、「子どもがいる暮らし」が、一人ひとりが描く未来の選択肢の一つになるための取り組み、短期的には、「子どもがいる暮らし」を望む人が、叶えられるための取り組みを行います。

(1) 「子どもがいる暮らし」を楽しむ **中長期**

子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。“自分の未来は自分で決める”といった主体的な選択を後押しするため、自らの将来に希望を持ち、その将来像を実現していくための学びの場の創出や、「子どものいる暮らし」に親しむため、地域や学校で乳幼児と接する機会を創ります。

●主な取り組みイメージ

- ・将来の自分の生き方をデザインするためのキャリア教育の実施
- ・学校園の余裕教室等を活用した「地域で働く、育つ、つながる」拠点の整備

(2) 「子どもがいる暮らし」を叶える **短期**

結婚・妊娠・子育て等の段階で、そのハードルとなる要因を取り除くための支援や対策を行うこ

とで、「子どもがいる暮らし」を望む人が、その願いをあきらめることがないよう支援します。

また、若い世代に対しては、若者同士のつながりや交流を通じて希望する将来像を描くとともに、自分が望む未来と子どもがいる暮らしの両立を後押しする環境づくりを進めます。

●**主な取り組みイメージ**

- ・ 男性の育児休業取得促進支援・女性活躍の推進
- ・ 母校での子連れ同窓会開催支援

● **第5次総合計画における関連する主な施策（基本計画）**

乳幼児期の育ち、若者が集うまち、子ども・子育ての安心

基本目標4 「誰もが活躍できるまち」「魅力的でつながりあえるまち」になる

～活動・交流人口増加～

基本目標1から3で、人口減少を緩和させる取り組みを進めますが、日本全体で少子高齢化が進行する中にあることは、大幅な人口増加を見込むことは難しく、人口が減ってもまちの活力を維持する取り組みが、あわせて求められます。

一つは、元気な市民、活動する市民を増やすことです。まちや地域のために何らかの活動をしている人の割合が増えれば、まちの活力は保たれます。もう一つは、市民でなくても、就労、学校、観光等で三田市を訪れる人が増えれば、まちのにぎわいが維持されます。

基本目標4では、中長期的には、活動するための原動力となる健康づくりの取り組み、短期的には三田の立地を活かした交流人口を増やす取り組みを行います。

(1) いつまでも健康で、活躍できるまちをつくる～活動人口増加～ 中長期

年齢に関わらず、住み慣れた地域で、いきいきと自立して暮らせるよう、健康寿命を延ばす取り組みを進めるとともに、これまでの経験で得た知識や技能、新たな学びを活かし、地域の元気づくりを進めます。

●**主な取り組みイメージ**

- ・ 困りごと登録バンクによるひとと活動のマッチング
- ・ ICTを活用した健康づくりの推進

(2) 「通り過ぎるまち」から「立ち寄るまち」になる ～交流人口増加～ 短期

観光ビジョンの推進により、三田市がもつ魅力的なヒト・コトの資源をかけ合わせた相乗効果により、新たな魅力づくりを進めるとともに、ハブ（結節点）の利点を活かし、周辺市町との広域的連携を進めるとともに、多くの人々が立ち寄りたくなるまちのコンテンツを創出します。

●**主な取り組みイメージ**

- ・ 三田市周辺地域と連携する観光圏の形成
- ・ 三田循環観光バスの運行

● **第5次総合計画における関連する主な施策（基本計画）**

健康づくり、いつまでも学び、活躍できるまちづくり、観光・交流・文化の振興